

ひとりひとりのしあわせと、
生きる喜びを、いのちの輝きを
ささえたい。

きらめき

VOL. 78

令和4年度 大牟田市介護支援専門員連絡協議会 書面審議説明会が開催されました

毎年4月に当協議会が開催しています「定期総会」ですが、新型コロナウイルス感染症の予防のため、会員の皆さんが集まって開催する形式は、三年連続で中止とさせて頂きました。その代わりとしまして、定期総会の中で審議して頂く予定となっていました議案の内容について、会員の皆様に説明を行う機会を設ける事となり、令和4年4月26日(火)にリモートによる書面審議説明会を開催致しました。

開会にあたり、当協議会の林会長より、「コロナ禍で、リモートによる会議や研修も3年目になりました。最初は不慣れで戸惑いながら取り組んできましたが、今では色々な場面でリモートを使った会議や研修が主となっています。利用者の方がコロナウイルスに感染してしまいますと重症化するリスクが非常に高いことから、まず私たちが感染しないように、引き続きリモートでの会議や研修にご協力をお願いします。」「世界で紛争が起きて、辛い思いをされている方々が大勢おられます。当たり前の生活が、ある日突然なくなり、人としての尊厳が踏みにじられる…これは対岸の火事ではありません。平和と人権が保障されて、私たちは本来の仕事が出来ます。平和な社会をいかに維持していくのか、紛争が早く終わるように考え行動していく事が大事だと思います。そういった意味でも人の尊厳をより意識していく一年にしていきたいと思います。」との挨拶がありました。

議案の内容については、当協議会の橋口事務局長より説明がありました。

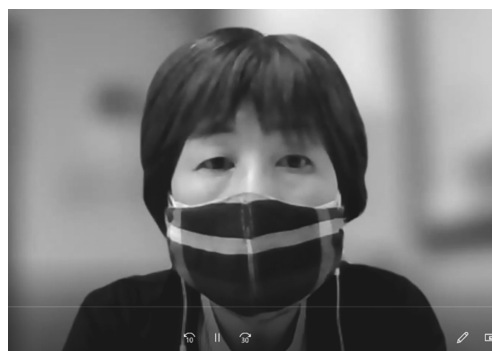
議案第1号では「令和3年度事業実績報告」、議案第2号では「令和3年度決算報告ならびに監査報告」について説明があり、監査報告では、新原監事と橋本監事より「適切に処理されている」との報告がありました。

続く議案第3号では「令和4年度事業計画(案)」、議案第4号では「令和4年度予算(案)」の説明がありました。議案第5号では「役員改選について」説明があり、情報交流事業部会長に工藤さん、新しい監事として浅沼さん、松枝課長が事務局案として提出されました。説明の中では、会員の方からの意見や質問はなく、議案の内容については書面審議にて可否をうかがう事になりました。

その結果、書面審議の提出が161件ありました。現在の会員数が、個人会員219名、事業所会員39事業所、合わせて258件で、書面審議提出の合計が会員数の過半数を超えており、令和4年5月13日に令和4年度の書面審議は成立しました。書面審議の内容は当協議会のホームページにも掲載しておりますが、議案第1号～議案第5号まで、161名の方全員から「承認する」との回答を頂きました。ご協力頂きました会員の皆様、ありがとうございました。



林会長



司会をされた 坂梨さん、井形さん

…会長挨拶…



林 洋一郎【高齢者総合ケアセンター サンフレンズ】

今年度、新たな体制で活動が始まりました。

会員の皆様も、長期にわたるコロナ禍での利用者への支援において、平常とは異なるご苦勞をされ、日々、利用者や事業所、周辺の状況を確認しながら様々な調整に奔走していることと思います。

また、そのような中でも、利用者のその人らしさや暮らしを大切にされ、そして、CM連協の活動が途切れることなく、歩み続けることができているのは、会員の皆様や各事業部会員の皆様、役員の皆様のお陰です。支えていただき、感謝を申し上げます。

介護保険制度や社会情勢など、介護支援専門員を取り巻く環境が変化する中、求められる期待は大きくなり、一方で介護支援専門員一人ひとりが抱える負担も課題となっています。

CM連協は、会員の皆様の専門職としての成長をサポートし、仲間と繋がり、支え合える拠り所でありたいと思います。

みんなで、私たちのCM連協を盛り上げていきましょう。よろしくお願い致します。

…副会長挨拶…



松下 しのぶ【社会福祉法人 あらぐさ会】

みなさまこんにちは。私は今期も2回目の副会長の任を受けさせていただくことになりました。

前期は初めての副会長ということで、会長をはじめとした役員のみなさまからのご援助もあり、何とか無事に任務を遂行していくことができました。

今年になっても新型コロナウイルス感染症の脅威はまだまだ続いており、予断を許さない状況にあります。

会員のみなさま方も日常のお仕事や活動に様々な抑制があり、ご苦勞されていることと思います。

そのような状況においても、介護支援専門員連絡協議会では昨年度に引き続き各事業部会の活動を充実させ、会員のみなさまに参加していただける内容にしていけるよう工夫や努力が求められていると考えています。

私自身も連絡協議会の活動に少しでも寄与できるよう頑張っていきたいと考えています。

これからは、介護支援専門員連絡協議会の活動でも次の世代へのバトンタッチが大切になっています。

会員のみなさまが、今後も積極的に当会への参加をして頂けますことをお願いしてご挨拶とさせていただきます。

…部会員紹介…

事務局部会



局 長	橋口 哲也	やぶつばきケアプランセンター
次 長	井形 諭司	ケアプランサービスなでしこ
委 員	中村しのぶ	リハビリ特化型デイサービス・ミライ
委 員	坂梨 恵子	介護予防・相談センター天光園
委 員	田島 泰弘	駿馬・勝立地区地域包括支援センター
委 員	竹下 一樹	中央地区地域包括支援センター
委 員	手塚 勝則	親仁会ケアプランセンター
委 員	荒川 佳子	アップルハート大牟田ケアプランセンター
委 員	千北 都	天光園ケアプランサービスセンター

みなさま、こんにちは。事務局部会です。コロナ禍3年目となり、様々な活動がオンラインとなり、便利になった反面、参集した会議や研修での「ちょっとした雑談」などがなく、ケアマネ同士のつながり作りの寂しさを感じてあるのではないのでしょうか。

そのような中でも、事務局では、主任介護支援専門員・施設系相談援助専門職の方々の活動やネットワークづくりのサポート、利用者が住み慣れた地域で暮らしを継続していくために対人援助専門職として必要な学びや考える機会を企画していきます。ぜひ、皆さんの参加をお待ちしております。

そして、今期も新しいメンバーが入ってくれました。“フレッシュ”な要素を吸収しながら、事務局メンバーの力を結集し、頑張っていきたいと思います。

研修事業部会



皆様、こんにちは。研修部会長をしております森田です。

コロナ禍となり、研修体制も見直しの検討となりました。オンライン研修の開始です。試行錯誤の始まりでしたが、今年度で3年目を迎えます。参加して下さる皆様も、ZOOMの取り扱いに慣れてこられた様子です。今後も変わりゆく制度、新しい技術に上手に対応していけたら、と考えています。

会員の皆様からの意見、ご要望もお待ちしております。会員の皆様とよりよい研修を今後も考えたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

部会長	森田 里恵	居宅介護支援事業所 サン久福木
副部会長	河野 徳子	三池地区地域包括支援センター
委員	濱砂安喜男	デイサービスすぎの木
委員	石田 千秋	グループホーム ファミリーユ
委員	上田 瞬	米の山病院
委員	坂井 敏子	大牟田市福祉課総合相談担当
委員	斎田ひとみ	親仁会ケアプランセンター
委員	森田 剛志	居宅介護支援センター よしの
委員	若松祐美子	生活支援センター サンフレンズ
委員	福山千亜紀	ケアプランサービスなでしこ
委員	野口 翔太	荒尾こころの郷病院
委員	幸田 展子	堀整形外科麻酔科クリニック
委員	田中 和美	三池地区地域包括支援センター

広報事業部会



部会長	今岡 慶教	居宅介護支援事業所 はなぞの
委員	今村美奈子	三池地区地域包括支援センター
委員	徳地 友加	サンファミリー介護サービス
委員	岩田 壽子	介護サポートセンター さんぽ
委員	前原 圭祐	やぶつばきデイサービスセンター
委員	坂上健二郎	生活支援センター サンフレンズ

会員の皆さん、お疲れ様です。

広報事業部会では、年三回の広報誌「きらめき」や「きらめき号外」の発行、連協のホームページやフェイスブックなどの活用や内容の検討などを行っています。会員の皆さんからご意見をうかがう機会がなかなかないのですが、広報事業部会の活動が、会員の皆さんの日頃の業務のお役に立っているのであれば、幸いです。これからも色々な情報を出来るだけ早く会員の皆さんにお届けしていきたいと思います。

広報部会では、一緒に活動して下さる方を随時募集しています。広報部会の活動が気になる方は、事務局の月山さんまでご連絡、よろしくお願い致します。

情報交流事業部会



部会長	工藤 信恵	吉野地区地域包括支援センター
副部会長	井上みどり	三池地区地域包括支援センター
委員	松下しのぶ	社会福祉法人 あらぐさ会
委員	柴原 雅世	医療法人 福寿会
委員	坂田 和重	サンファミリー
委員	大隈テル子	居宅介護支援 あすなろの郷
委員	成清 慈江	介護付有料老人ホーム セーヌ大牟田
委員	村本 卓也	さかき診療所居宅介護支援事業所
委員	平山 徹	株式会社HACO LiB

今年度より、情報交流部会長をさせて頂く事になりました、吉野地区地域包括支援センターの工藤です。松下副会長に長年ご尽力頂き、今後も継続できる様に努力していきたいと思います。

コロナ禍において、昨年度もケアマネジャーの交流会や顔を合わせての事業が実施できない中、できる方法を部会員で検討を重ね、多職種連携の交流会を実施する事ができました。

今年度も変わらない状況の中でのスタートとなりますが、部会員全員で事業の実施ができる様に考えていきたいです。どうぞよろしくお願い致します。

相談役	安藤 寛治	メディカル・コアあとお薬局
監 事	浅沼 未希	親仁会ケアプランセンター
	松枝 芳昭	大牟田市福祉課総合相談担当

シリーズ・実践事例

身寄りがない認知症高齢者の一人暮らしを
どう支えていくのか迷った事例



【事例概要】

H29年に圧迫骨折で入院され、退院後の支援で介入。独居だったが、長年住んである場所で近隣住民との関係性もできており、一緒に買い物や通院などに行かれていた。住居の老朽化により住み替えとなり長年親しんだ場所を離れることになり、令和2年に転居された。その頃より物忘れが徐々に進行。本人は「一人で自由に暮らしていきたい」と言われるが、「寂しい」との言葉もよく聞かれるようになる。曜日や時間の感覚が曖昧になり、金銭面でも盗られ妄想が出現、通帳や保険証の管理ができなくなり探すことが多くなる。金銭管理を自立支援事業に切り替え、訪問介護も定期巡回サービスへ変更。現在も在宅サービスを継続されている。

【基本情報】

- ・Aさん 95歳 要介護2
- ・現病歴 アルツハイマー型認知症
変形性腰椎症

（ADL）

- ・移動 杖・歩行器歩行
- ・排泄 自立（時々失禁がある）
- ・食事 配食利用（夕食）
- ・更衣 自立
- ・入浴 デイでのみ入られている

（IADL）

- ・買物 近所の友人と一緒にいたり買物を依頼されたりしていたが、転居後は訪問介護に頼っている。

- ・調理 全くされない
総菜やパンなどを食べている
- ・掃除 訪問介護による支援

【生活歴】

3人姉妹の長女として生まれる。結婚歴はなく、洋裁の仕事をして生計をたてられていた。60歳の時に父親が他界するまでは市営住宅で二人暮らしをされていた。姉妹との交流もあったが、それぞれが結婚し遠方に住んでいるため、高齢でもある事から交流の機会は減っていった。

【支援経過】

平成29年

C病院から依頼あり、支援開始。退院時は歩行不安定で室内は2本杖で歩行し、屋外はシルバーカー歩行。腰痛あり屈むことができず歩行もままならない状態。訪問介護による掃除・洗濯等の生活援助と通所介護での入浴・運動機能維持の支援を開始。支援開始時は認知症状も目立たず歩行機能の課題だけで、調子がいい時は庭の草むしりをしたり近所の友人のところに遊びに行ったり、通院や買物も何とか自分で行かれていた。

令和2年9月

住居の老朽化のため住み替えの案内が届く。知り合いが誰もいない場所への転居に不安はあったが、老朽化した建物内で一人で過ごす不安よりも転居した方がいいと決意された。

場所の選定や現在の住まいの処分等本人と話し合いながら進めていった。

令和2年12月

住み替えが決定し、転居のスケジュールを組む段階になった頃から、「引っ越ししても大丈夫だろうか」「何も分からなくなった」「何かわからないけど不安」と言われるようになる。不安はあるが今の家からは転居したいとの思いはあり、転居先に一緒に行って生活動線を考え提案したりなど、不安軽減に努めた。ケアマネとしては近隣住民の方との交流がなくなり、A氏が自宅に一人でいる時間が長くなることが一番の心配要素だった。

令和3年3月

転居。転居後しばらくは環境に慣れるため気を張ってある様子で、玄関の開け方やゴミ出し日など覚える事を一生懸命されていた。ひと段落された頃から、「寂しい」「誰も知り合いがいない」等言われるようになる。介護保険のサービスでは、訪問介護を追加して買物・掃除の支援を依頼。通院は徒歩で通うと言われていたが距離もあることから、ケアマネが同行して徒歩（歩行器）での通院ができるかの確認を行った。ふらつきながらの歩行で、道路状況も悪い箇所があり、歩行器使用でも倒れそうになるなど支援が必要な状態だった。始めのうちは、「これくらいの距離なら歩ける」と言われていたが、病院に着く頃には足が上がりなくなり、疲労感も強かった。「受診はタクシーを利用した方がいいのでは」と本人に提案、主治医にも事情を説明し「タクシーでの通院がいい」と話して頂き、A氏も自分の体力が続かないことを自覚され、タクシー利用には納得された。

令和3年4月

寂しいとは言われていたが、調子がいい時には友人と買物や外食に行かれるようになった。

令和3年6月

友人が体調を崩され訪問されなくなり、再び「寂しい」「死んだほうがいい」など頻回に言われるようになった。施設に入るなどの選択もあることをその都度A氏に説明。「寂しいけど一人暮らしを続けたい」と意向は変わらなかった。友人が来られなくなってからは薬の飲み忘れが目立つようになり、常に何かに不安になられている様子だった。受診にはケアマネが付き添い、主治医に状況説明を行っていた。

令和3年8月

A氏より「お金を盗られた」と連絡あり、訪問する。「タンスにお金を入れていたが、それがなくなっている」と言われる。また「財布の中からもいくらかは分からないが、無くなっている気がする」と言われ、ヘルパーが盗ったと思い込まれており、「見たわけではないが、確実にその人が盗った」と断言された。確認のためにA氏と一緒にタンスの中を再度確認させて頂くと、引き出しの下に封筒を発見した。それが無くなったと言われていた封筒であることをA氏に確認した。封筒の中にお金は入っていたが、A氏は「この件に関しては誤解だったけどお金は盗られている」「私の頭がおかしくなったのかな」と対象のヘルパーに対する不信感は消えなかった。また、自分がおかしくなっているのではとの不安も出てこられたようだった。訪問介護事業所に相談し、ヘルパーの交代で様子を見ることとなる。

令和3年10月

「一人は寂しい」「どうしていいかわからない」「早く死にたい」等、デイスタッフやヘルパーに言われることが多くなり、ケアマネに対しても「世話をかけて申し訳ない、早く死なないといけないけど死ななりたい」と言われるようになった。「デイに毎日でも行きたい」との希望があり、ケアマネも食事の確保や内服管理の必要性を感じたため、デイサービスを週4回へ増回。デイの送迎時には内服確認や食事を食べているかなどの確認を依頼した。金銭の被害妄想については、ヘルパーを交替した以降は消失したが、通帳の紛失や通帳を認識できないなどがあり、日常生活自立支援事業に金銭管理を依頼。デイサービスの回数が増えたことで、「寂しいけどデイに行けるから楽しい」と笑顔がみられるようになった。金銭面でも、支払い等を代行してもらえうようになったため安心したと話された。

令和3年11月

デイの迎えの時間やヘルパーの訪問時間になっても、鍵を閉めて寝てあることが多くなった。A氏は曜日や時間の感覚が分からなくなってある様子だった。利用日の朝に各事業所から電話をしてもらうようにしたところ、時間になっても寝ておられる事はなくなった。

令和3年12月

自宅では食事をほとんど食べていないようで体重の減少がみられた。活気もなく「分からなくなった」と不安な思いを訴えられる。主治医の勧めもあり、ショートステイを利用。しかし、A氏は自宅での生活を希望されていたために長くは利用できず、体調が整ったところで自宅へ戻られた。このタイミングで、訪

問介護の支援を定期巡回で1日3回へ、通所介護の利用は週2回へと変更した。複数回訪問して頂くことで、食事の提供・確認、内服管理、空調管理ができるようになり体調は安定した。

【考察】

転居による環境の変化で、A氏の生活状況はもちろん認知機能面での変化が著しくみられた。すべての生活動線が変わったことで、今までできていた買い物や通院、金銭の出し入れができなくなり近隣住民との交流も途絶えてしまい、A氏が一人でのいる時間が多くなった。不安や戸惑いは大きかったように思う。環境の変化はある程度想定し動いていたつもりだったが、転居という環境の変化がもたらすA氏への影響の強さを改めて感じた。一人で寂しい思いや、色々なことが分からなくなっている不安な思いをA氏から聞くたびに、また高齢であるため体調面の変化に不安を感じるたびに、一人暮らしより施設の方がいいのではないかと何度も考えた。A氏とその都度話しをしてきたが、一人暮らしの意向は変わらなかった。

現在は、ヘルパーによる頻回の訪問にて食事や服薬、体調確認がしっかりできており、デイサービスでは、スタッフや利用者と穏やかに談笑されているA氏の姿がみられている。認知機能の低下や体調不良時の対応など気になる事は多々あるが、A氏の「一人暮らしを続けて自由に生きたい」との思いに寄り添いながら、ケアマネとしてできる限りの支援を行っていきたい。

りしー随想

No.59

居宅介護支援事業所そよかぜの松本さんよりバトンを渡されました、白川病院ケアプランサービスの川上です。今回松本さんに声をかけて頂き、嬉しく思っています。

私が仕事をしている白川病院ケアプランサービスは、病院の一角にある事業所です。松本さんとの知り合うきっかけになったのは、ケアマネジャーの更新研修でした。ケアマネジャーの資格は持っていましたが、長年の看護師の仕事を終えて、ケアマネジャーの業務に携わることになり、更新研修に行くことになりました。医療だけの世界から、無謀にも介護の世界へ飛び込み、不安な私を救ってくれたのが電車の中で知り合った松本さんでした。研修の行き帰りにいろいろなことを話せるようになり、研修に行くのが楽しく、研修が終わるのが寂しい気持ちになりました。歳の離れた妹みたいな存在で、今でも楽しい時間を過ごせたことは忘れません。今ではうちのスタッフの皆さんのやさしさに甘えて助けられながら、介護の世界は奥が深いと感じながらケアマネジャーの業務に取り組んでいます。

今はこのコロナ禍で、人との関わりが薄くなり楽しみのある生活が少なくなっていますが、私は長く趣味か特技？なのかはわかりませんが、ヒップホップダンスを習っています。ヒップホップダンスはアップとダウンでリズムをとるのが特徴なダンスですが、私は今以上の上達は望めませんので、健康と運動能力向上を目指して頑張っているところです。老いるのは寂しいものですが、それ以上に素敵な仲間を支えられながら過ごせるのは幸せです。人を支えるのは人の力が必要であり、生きがいを持つのは意欲向上に繋がり、さらに日常生活の活力に繋がっていくと思いますので、もうしばらく楽しみの持てる生活を送れるようにこれからも頑張っていきたいと思います。

次のバトンは以前ダンスと一緒に習っていた、お洒落で素敵な介護予防・相談センター天光園の桜島日出子さんです。なかなか会えないのが残念ですが、楽しくダンスやおしゃべりをした日々を思い出します。次のバトンを快く受けて頂きありがとうございます。

○ 白川病院
○ ケアプランサービス

川 上 幸 子

次回は……………

○ 介護予防・相談センター
○ 天光園

桜 島 日出子 さん

です。

大牟田市からのお知らせ

みんなで支え合う 「重層的支援体制整備事業」が始まりました

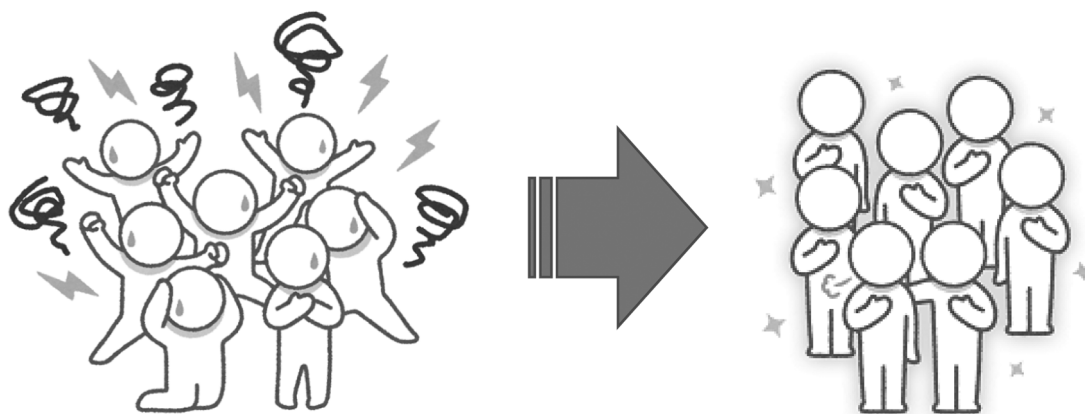
近年、地域や家族などの「つながり」が弱体化していく中で、生活課題を抱えながらも相談する相手がいない市民や制度の狭間で孤立してしまい「生きづらさ」を感じている市民が増えているように感じられます。

また、家族構成の変化と多様化により、生活課題も複雑化・複合化しており、単一の支援機関だけでは対応が困難なケースも増えています。

本市におきましては「多機関による包括的支援体制構築事業」をモデル的に実施し、制度の狭間にある刑余者やひきこもり、依存症等対応が困難なケースについて各支援機関と役割分担をしながらそのケースが抱える住まい、お金、仕事などの課題解決に取り組んできました。

こうした中、国においては①相談支援、②参加支援、③地域づくりに向けた支援を一体的に行い包括的な支援体制を構築する「重層的支援体制整備事業」を創設し、本市でも4月より取り組むこととなりました。これまで培った支援機関との連携体制をさらに推進し、様々な困難ケースに役割分担しながら対応していきたいと考えています。

介護支援専門員の方々も当事者支援の延長でその世帯全体の課題に直面し、悩まれるケースもあるかと思います。そのような場合は福祉課総合相談担当内に推進員を配置していますのでご相談ください。



【編集後記】

最後まで「きらめき」を読んで頂き、ありがとうございます。

この「きらめき」に初めて記事を書いたのが、vol.27。そして今号がvol.78ですので実に50号ちかく関わらせて頂いている事になります。「継続は力なり」と言いますが、自分なりに事例や研修の記事をまとめる力がついてきたように感じます。それに比例して年齢も上がってきまして、先日、突然の網膜剥離で一週間の入院を余儀なくさせられました。9年前に「白内障」の手術は済ませていますが、今回の入院で新たに「緑内障」も見つかりました。若いつもりでも歳には勝てませんし、身体は正直です。でも逆に「きらめき」は発行数を重ねるたびに、会員の皆さんが読みやすいように、業務のお役に立てるように、少しずつでも新しく生まれ変わっていかなければいけないと感じています。これからもご期待下さい。そして、くれぐれも目は大事にして下さい。

〈百円仮面〉

編集・発行 大牟田市介護支援専門員連絡協議会 広報事業部会
事務局 大牟田市福祉課内 (TEL: 0944-85-0470 FAX: 0944-41-2662)
大牟田市介護支援専門員連絡協議会ホームページ <http://omuta-cm.net>